

各教科等における 言語活動の充実

その1：言語活動を位置付けた学習活動

思考力・判断力・表現力等を高めるためには、言語活動を位置付けた学習活動が重要になります。

平成20年1月に示された中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」では、以下のような言語活動を適切に位置付け、各教科等の目標を実現していくことが大切であるとされています。

① 体験から感じ取ったことを表現する

(例)・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する。

② 事実を正確に理解し伝達する

(例)・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する。

③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例)・需要、供給などの概念で価格の変動を捉えて生産活動や消費活動に生かす。
・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する。



④ 情報を分析・評価し、論述する

(例)・学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する。
・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4 1枚(1,000字程度)といった所与の条件の中で表現する。
・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする。
・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する。



⑤ 課題について、構想を立てて実践し、評価・改善する

(例)・理科の調査研究において、仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする。
・芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し工夫・改善する。

⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(例)・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う。
・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる。



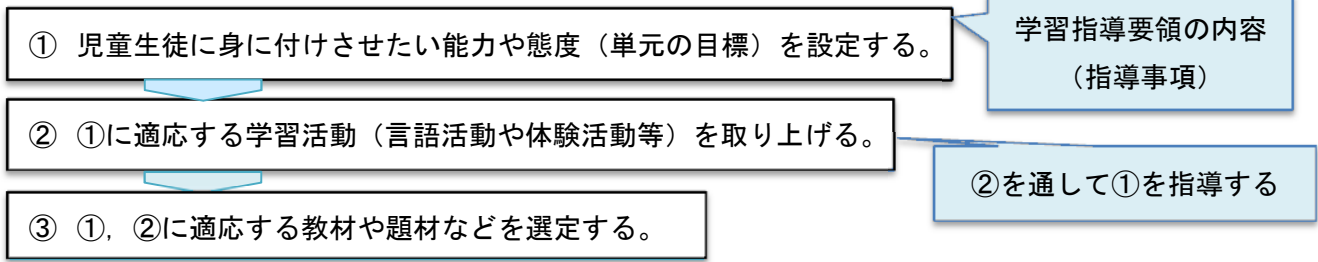
その2：教科等の特質を踏まえた指導の充実

言語活動は、各教科等の目標の実現のための手だてであることに留意し、教科の特質や児童生徒の発達段階を踏まえた上で国語科との関連を図りながら取り組むことが必要です。

国語科では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域において言語活動を通し

て言語能力を育成しています。他の教科等では、国語科で育成した言語能力や言語活動の経験を生かして指導することが大切です。

各教科等で一つの単元を構想するときの過程の例を示します。



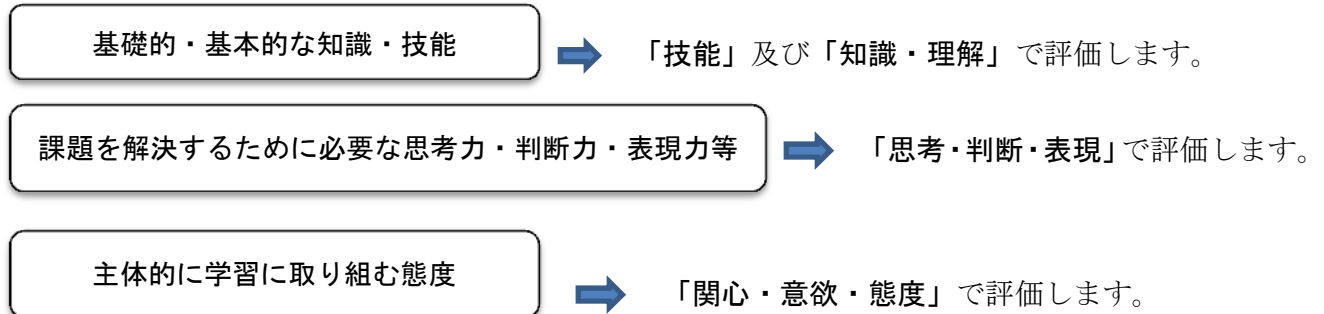
児童生徒の学習の評価は、目標として設定している①の身に付けさせたい能力や態度の実現の状況です。

その3：学習評価と「言語活動の充実」

各教科の内容等に即して思考・判断したことを、表現する活動と一体的に評価する観点が「思考・判断・表現」と設定されました。この「思考・判断・表現」の観点については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、説明、論述、討論といった言語活動等を通じて、思考・判断の過程を含めて評価するものであるとされています。

学習指導の改善や教育課程全体の改善につながる学習評価の意義・目的を踏まえ、言語活動を通して育成する、思考力、判断力、表現力等について、各教科の対応する観点において適切に評価することが求められます。

○学校教育法で規定された学力の三つの要素と評価の観点の関係



その4：指導事例について

事例を参考に、それぞれの教科等の目標を実現するため、これまでの取組を見直し、より効果的な指導に改善していくきっかけにしましょう。

指導の見直しに当たっては、これまで行ってきた言語活動を把握・検証することが大事になります。その上で、指導計画の作成に当たっては、各教科等の目標と指導事項との関連、教材や教具について十分研究し、効果的な指導を行うための言語活動の工夫・改善に向けて検討することが必要になります。

○参考資料

- ・「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【小学校版】（文部科学省）
- ・「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】（文部科学省）
- ・言語活動の充実を図る全体計画と授業の工夫（独立行政法人教員研修センター）

言語活動の充実 各教科等の指導のポイントの見方

以下の視点で小学校、中学校における各教科等の指導のポイントを作成しています。

小学校 理科 言語活動の充実 指導のポイント

教科目標
自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を受取る心情を育てるとともに、自然の事象・現象についての実感を持った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得。これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育成

言語活動の充実
科学的な思考力・表現力の育成を図る観点から、学年や発達段階^①指導内容に応じて、例えば観察・実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を充実する。

実験データを解釈し、集団で協議する事例^③

1 学年 第3学年
2 単元名 風とゴムで動かそう
3 小単元の目標
ゴムの伸び量と車が進む距離との関係について実験を通して調べ、調べた結果を正しく記録することができる。また、実験結果を基に整理した「分布図」を分析しながら、ゴムの性質や規則性を見出すとともに、ゴムを伸ばす長さを調整して、ゴールインゲームを行うことができる。

4 言語活動の充実の視点
視点1：ゴムの伸び量と車が進む距離との関係を示した分布図を分析・解釈し、グループで作戦（予想）を立てる。
視点2：ゲームの結果と立てた作戦（予想）とを照らし合わせながら、ゴムの性質や規則性についての見方や考え方を深める。

5 主な学習活動（3時間扱い）

時間	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> 『ゴムの伸ばす長さを変えると、車が進む距離はどのように変わるだろうか』を学習問題に予想や実験の計画を立てる。 ゴムを伸ばす長さを変えながら、車が進む距離がどう変わるかを調べ（実験）、結果を記録する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 『ゴムの伸ばす長さを変えたときの車の進む距離を調べた結果をいかして、ゴールインゲームをしよう』を課題に、前時の実験結果を分布図に整理する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 分布図からゴムの伸び量と車が進む距離との関係や規則性を考え、グループで作戦（予想）を立てる。 視点1 グループの作戦を基にゴールインゲームを行う。 ゲームの結果と作戦（予想）を照らし合わせてゴムの性質や規則性について考察する。 視点2

理科における言語の役割
○ 理科は、事象や体験から概念を形成していく教科です。観察、実験、栽培、飼育、ものづくり等の体験を経ながら具体を抽象化していきます。
○ 言語を駆使しながら、具体から概念や法則を導いていく過程で科学的思考力・表現力が育成されます。

言語活動を充実させる主な場面
○ 理科は、問題解決の過程を経ることにより実現されます。
○ その際、問題に対して、予想や仮説を持つ場面と観察・実験の結果から言えることを考察しまとめていく二場面^②で言語活動を充実させます。

評価の観点
○ 言語活動を充実させることで、科学的思考力・表現力や問題解決の能力を育成します。
○ 科学的思考力・表現力や問題解決の能力は「科学的な思考・表現」の観点で評価します。
○ その際、主に観察・実験の前と後の二場面において、児童の考えを言語で表現させることが大切です。そして、表出した考えを評価します。^⑤

① 教科・領域における言語活動の充実

言語活動は各教科等の目標の実現の手だてであることに留意し、それぞれの特徴を押さえて取り組むことが大切です。

② 指導上の留意点

「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【小学校版】【中学校版】（文部科学省）」で示されたことや、文部科学省で説明された内容を基に、特に気を付けてほしい点を示しました。

③ 言語活動を位置付けた学習活動

「各教科等における言語活動の充実」の「その1：言語活動を位置付けた学習活動」にある①～⑥に照らし合わせて提示しています。
教科等の特質を生かし、1単位時間もしくは1単元時間で表しています。

④ 言語活動の充実の視点

言語活動の充実の視点は、1単位時間もしくは1単元時間のどこに、どのような「言語活動」を位置付けるのかを示しています。

⑤ 評価の観点

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校）（中学校） 国立教育政策研究所 教育課程研究センター」で示されたことや、文部科学省で説明されたことを基に、各教科等で言語活動を通して育成する、思考力・判断力・表現力等をどの観点で評価するのか示しました。
学習指導要領の目標の実現状況を把握し指導の改善に生かしましょう。